

お知らせ

総務省信越電波協力会様より情報通信機器の寄贈がありました!!



平成 30 年 6 月 15 日

当会県事務局に

パソコン 1 台



信越電波協力会様とは

信越地区の放送局・通信会社・新聞社・行政など 74 団体が会員となっています。

毎年、福祉団体へ通信機器の寄贈をされています。

～♪インフォメーション♪～

○ 長野県手をつなぐ育成会 研修会のご案内

東北信長野 11 月 17 日 (土) 須坂市シルキーホール

講演「意思決定支援について」 講師 又村 あおい 氏

鼎談 又村あおい氏・福岡寿氏・野口直樹氏

中南信 11 月 24 日 (土) 南箕輪村村民センター

講演「我が事丸ごと地域福祉を考える」 講師 野澤和弘 氏



青い空白い雲

長野県手をつなぐ育成会ニュース
平成30年9月発行
発行者 長野県手をつなぐ育成会
会長 中村 彰

〒380-0928
長野市若里7-1-7
長野県社会福祉総合センター5F
TEL026-227-6811
Fax026-227-6836

第 55 回 長野県手をつなぐ育成会県大会が開催されました

平成 30 年 6 月 30 日 (土) 駒ヶ根市市民文化センター



全日本手をつなぐ育成会連合会

久保厚子会長

前日の厚労省の関係会議を終え霞が関から高速バスで 4 時間かけて

久保厚子連合会会長は育成会の顔として日本各地のみならず海外の会議もこなすご多忙な日々にも関わらず、当会県大会の講演会におこしください、育成会活動の草創期から今日に至るまでの活動の歴史とその成果をお話いただきました。

「わが子にも教育を」「わが子にも人権と幸せを」と願って、差別的な言葉である「精神薄弱」をあえて掲げてわが子の人権回復を求める団体であることを明確に示し、揺るぎない決心とともに強い連携活動を目指して立ち上がった、その原点をもう一度思い起こす必要があるのではと感じました。

会員の高齢化と減少と育成会の置かれた状況は猶予を許さない事態と認識し、全日本手をつなぐ育成会の新しいあるべき運動団体としての整理と統合を行い「障害者の権利擁護」と「必要な政策提言」を進めるために新たな時代にふさわしい組織再生に向けて現状からの脱皮が必要との今後の育成会活動のビジョンも語られ、育成会活動の重要性を改めて認識しました。

☆…育成会連合会の存在価値 参加している国の会議…☆

- 【内閣官房】 「ユニバーサルデザインの心のバリアフリー・街づくり」
- 【内閣府】 「障害者政策委員会」「成年後見制度利用促進法検討会議」「認知症等(知的を含む)の意思決定能力支援の在り方委員会」
- 【厚労省】 「社会保障審議会障害者部会」「労働政策審議会雇用分科会」「のぞみの園あり方委員会」「障害者扶養保険事業検討会」
- 【文科省】 「バリアフリー法に基づく移動円滑化検討会」「バリアフリーネットワーク会議」
- 【その他多数の委員会】【国会議員各党との連携】

このように国の機関から意見聴衆される団体として認められているのは育成会組織が全国各地にあるからです。これからも活動の灯をともし続けましょう。

午後からのパネルディスカッションには中村彰会長の司会のもと

駒ヶ根市民生部長 猿田孝弘 氏

駒ヶ根悠生寮施設長 酒井雅木 氏

両氏のご参加を得て久保会長を助言者として「今後の地域育成会活動が担う役割」というテーマで話し合いました。今私たちが抱えている「不安・疑問・不都合」これが活動の原動力であり、地域の中で暮らしていくための課題克服が活動テーマです。誕生から学齢期・青年期・成壮年期・熟年期・終末期とそれぞれの問題を行政・障害福祉事業所とも共有し、次世代への活動の継承を目指していくべきであることを確認しました。

駒ヶ根市の福祉への取り組みや駒ヶ根悠生寮様の現在の取り組みを伺い自分たちの住まいの行政・施設との関わりも大切にする必要性と、地域に育成会があることを大きな利点であることを再確認できました。



おなじみ

こまかつぱ君

育成会活動の歴史と成果を考える（久保会長の講演資料より）

—何もなかった時代からの知的障害者の権利獲得の活動の歴史—

“育成会活動の原点は・・・「人権回復と政策提言活動」”

教育 労働 健康 社会参加 暮らし 遊びの各分野で以下の制度が確立されました。

精神薄弱福祉法、知的障害者年金制度、重度精神薄弱児扶養共済手当、JR 運賃割引、特殊学級制度

全員義務教育、特別児童手当の拡大、近年では被成年後見人の選挙権の回復（注 法律名は当時のものです）と今、あたりまえのように獲得している権利も、育成会活動で獲得してきた権利です。

一例として運賃割引は旧国鉄時代に育成会の運動で獲得したものです。現在民間企業となった JR が継続して割引対応していますが、同じ障害分野でも精神障害者手帳取得者の方々には運賃割引の対象とはなっていません。精神障害者の方々の運動歴史は浅く、一民間企業となった JR に対し「障害者差別解消法」を根拠としての運賃割引を求めて運動をしていますが、JR サイドの回答は「障害者政策は国がやるべきこと」一方国土交通省は「JR への運賃割引への働きかけは民間企業であるから国からはできない」との返答で堂々巡りを繰り返しています。他の鉄道会社では運動によって、精神障害者手帳取得者へ運賃割引に対応している企業もありますが、JR への運賃に精神障害者手帳取得者の障害者運賃割引を求める運動は難航しています。

ちょっといい話

長野県の情報コミュニケーション支援研究会が募集した好事例集に寄せていただいた事例をご紹介します。

飯島町手をつなぐ育成会 賛助会員 新井 美保子

養護学校を卒業した仲間を中心に和太鼓の活動を行っています。「障害があってもできることがあることを伝えたい」「和太鼓を通して地域の方々に元気のおすそ分けをしたい」などの思いで地域のお祭りや文化祭等に参加しています。敬老会に呼ばれた時にはお年寄りの方が知っている歌をやろうと自分たちで曲を考え篠笛でメロディーを吹き、手話も取り入れての演奏をしました。お年寄りの方々には知っている曲になると大きな声で歌ってくださり、私たちも張り合いになりました。



☆☆☆北信地区協議会の紹介☆☆☆

手をつなぐ育成会北信地区協議会主催

研修会&情報交換会『学ぼう!!話そう!!』

2018年3月4日(日)

『障がい者差別解消相談窓口から見える共生社会の実現に向けて』

講師:依田 哲郎 様(長野県健康福祉部 障がい者差別解消推進員)

『これからの福祉施策の展開「我が事・丸ごと」の地域共生社会』

講師:樋口 忠幸 様(長野県総合リハビリテーションセンター 主任)



北信地区協議会では研修会を開催し20名の方が参加しました。

駅や病院、公共施設等によっては、頼んで対応をしてもらう状況が多々あり、共生社会の実現には、まだまだ時間がかかりそうです。講師の樋口様は、「便利な世の中になり、人は『気づかない』のではなく、『気づけない』事が増えてしまっている。」と話されたことが印象に残りました。不便な事や困った事は、声に出して伝えていき誰もが住みやすい地域を目指し、手をつなぐ育成会員としても今後も声を挙げていきたいと思えます。

情報交換会は活発な雰囲気で行われました。会員同士が話し合える機会ではありましたが、時間が短く参加された皆さんの想いを出し切れず消化不良となってしまう次回の課題となりました。文責 山之内手をつなぐ育成会

【参加者のアンケートから】

・地域での見守りは大切だがなかなか理解していただくことができないのではないのでしょうか。先は長いですがで

北信地域の各育成会はふれあい支援事業・自然探勝会を活用し会員同士の交流をしています。

レクリエーション、グループホームの見学会、茶話会等を開いて日常の悩みや不安を語り合い活動へとつなげています。地域を超えた企画で自然探勝会を開催し、自然の中で北信圏域の情報交換をしたり交流を深めています。飯山養護学校の学校祭に参加し在校生の保護者の皆さんに育成会の PR 活動をし会員の拡大活動にも熱心に取り組んでいます。



北信地区協議会構成地区育成会

・飯山市手をつなぐ育成会

・木島平村手をつなぐ育成会

・上水内郡手をつなぐ育成会

・山ノ内町手をつなぐ育成会

信濃町手をつなぐ育成会

・中野市手をつなぐ育成会

飯綱町手をつなぐ育成会

・須坂・小布施・高山手をつなぐ育成会

小川村手をつなぐ育成会